

# 古刀新刀 名作展

## 第48回埼玉県名刀展

平成16年6月20日(日)～7月4日(日)

9時～17時(最終日のみ16時30分まで)

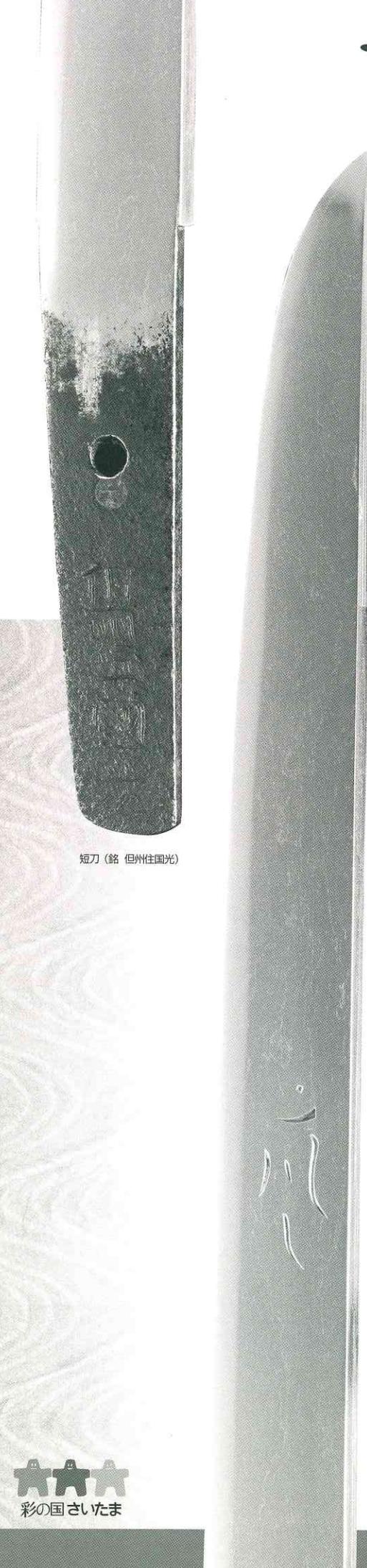
入館料／一般150円、高・大学生100円、小中学生50円(20人以上団体割引)  
休館日／6月21日月・25日金・28日月

展示解説／6月27日日 14時～

刀身彫刻実演／6月20日日・27日日 10時～13時～

主催 埼玉県教育委員会 狹山市教育委員会  
埼玉県刀剣保存協議会

短刀(銘 但州住国光)



狹山市立博物館

〒350-1324 埼玉県狭山市稻荷山1-23-1  
TEL 04-2955-3804  
<http://www.city.sayama.saitama.jp/>

## 開催にあたって

今年で48回目を迎える埼玉県名刀展は、日本の伝統技術や美意識を現代に伝える、わが国古来の優れた美術工芸品であり、歴史的にも貴重な文化遺産である日本刀を、県民の方々に正しく理解していただき、その保存と普及をはかるため、昭和32年（1957）から開催しています。

今回のテーマは、「古刀・新刀名作展」です。日本刀には、平安末期より江戸時代末までの長い歴史がありますが、このうち平安末から室町末期までの古刀と、織豊時代より江戸時代にかけてのものを新刀と称して大きく二つに分けられます。この二つの時期区分は、単に製作年代だけではなく、刀工の分布や流派にも様々な特色や相違が見られます。今回の展示では、古刀・新刀それぞれの時期の名作を集めました。また、併せて小道具も展示いたします。

本展示を通して、日本刀の歴史の変遷と名工達の日本刀に対する想いの一端を垣間見ていただければ幸いです。

開催にあたりまして、格別のご協力を賜りました関係各位に、厚くお礼申し上げます。

平成16年6月20日 埼玉県教育委員会教育長 稲葉 喜徳  
狹山市教育委員会教育長 門倉 節明  
埼玉県刀剣保存協議会会長 志塚 徳行

## 古 刀

種別	刀 工 名	年 号	寸 法	指 定
1	短刀 国吉		8寸5分 (25.8cm)	
2	脇指 相州住廣正	宝徳元年（1449）八月日	1尺8寸7分 (56.7cm)	
3	短刀 但州住国光		9寸強 (27.3cm)	埼玉県指定文化財 特別重要刀剣
4	太刀 吉平		2尺2寸5分 (68.2cm)	重要美術品
5	刀 無銘 吉岡一文字		2尺3寸 (69.7cm)	重要刀剣
6	太刀 備前国(以下切)朱書景光		2尺2寸6分 (68.5cm)	特別重要刀剣
7	刀 金象嵌銘景光 本阿弥花押		2尺4寸6分 (74.5cm)	特別重要刀剣
8	刀 無銘 伝兼光		2尺4寸5分 (74.2cm)	特別重要刀剣
9	脇指 長船修理亮盛光	応永廿二年（1425）二月日	1尺2寸8分 (38.8cm)	
10	太刀 備州長船則光	文安二年（1445）二月日	2尺2寸 (66.7cm)	重要刀剣

11	短刀	兵部少輔源朝臣政則爲所持雖自作与刑部少輔則途也	文明十四年 (1482) 十二月廿七日	8寸5分 (25.8cm)	
12	脇指	備前国住長船平右衛門尉貴光	永正十六年 (1519) 八月吉日	1尺9寸2分 (58.2cm)	重要刀劍
13	刀	備州住長船治光作	大永五年 (1525) 二月日	2尺2寸 (66.7cm)	重要刀劍
14	短刀	備前国住長船勝光治光	大永七年 (1527) 八月日	7寸1分 (21.6cm)	重要刀劍
15	刀	備前国住長船源兵衛尉祐定	弘治二年 (1556) 八月日	2尺3寸1分 (70.0cm)	重要刀劍
16	太刀	延次		2尺2寸 (66.7cm)	特別重要刀劍
17	刀	金粉銘 恒次		2尺4寸 (72.7cm)	重要刀劍
18	刀	無銘 伝左弘行		2尺3寸4分 (70.9cm)	特別重要刀劍

## 新 刀

	種別	刀工名	年号	寸法	指定
19	短刀	洛陽住信濃守藤原国広造	干茲慶長十二 (1607) 丁未竜 集吉辰	9寸5分 (28.8cm)	重要刀劍
20	刀	越中守正俊		2尺3寸5分 (71.2cm)	
21	脇指	井上和泉守國貞	寛文五年 (1665) 八月日	1尺7寸 (51.5cm)	
22	刀	長幸於摂津国作之	金粉銘 白雲多々良	2尺1寸5分 (65.1cm)	重要刀劍
23	刀	越前守法城寺橘正照	加納彦太夫菅原玄和咲宝	2尺2寸1分5厘 (67.1cm)	重要刀劍
24	脇指	大和守安定	金象嵌貳ツ胴裁断山野加エ門永久花押 寛文元年 (1661) 閏八月九日	1尺8寸 (54.5cm)	重要刀劍
25	脇指	相模守政常入道		1尺1寸5分 (34.8cm)	重要刀劍
26	刀	越前国住兼植		2尺4寸8分5厘 (75.3cm)	特別重要刀劍
27	刀	肥前国忠吉		2尺3寸5分 (71.2cm)	重要刀劍
28	脇指	肥前国住人忠吉作	肥前国剣物藤原宗長	1尺3寸1分 (39.7cm)	重要刀劍

## 新々刀

	種別	刀工名	年号	寸法	指定
29	刀	応梅澤寄周需 固山備前介宗次作之	弘化二年 (1847) 丁未年十一月日於千住 太々両車土壇拂切手山田五三郎	2尺3寸 (69.7cm)	
30	刀	武藏住小林英道作	慶應四年 (1868) 六月日	2尺4寸5分 (74.2cm)	

# 刀装具

作 者	図柄と種別	作 者	図柄と種別
石黒政常	梅におしどり図鐔	橋本一至	雲竜図縁頭
法眼安親	岩上猛虎図鐔	吟竜舎明祥	虎図縁頭
次郎太郎直勝	亀甲に車図鐔	春明法眼	両節句図縁頭
埋忠宗義	葵唐草図鐔	光善寺	秋草に虫図縁頭
小熊寿興	富士越し竜図鐔	桑村好春	鷹に猿候図縁頭
後藤寿乗	双虎図小柄	一宮常直	馬師皇図縁頭
後藤延乗	牡丹喰獅子図小柄	後藤廉乗	枝柿図笄
一宮長常	野うさぎ図小柄	菊岡	唐獅子図笄
一宮常直	鶏の図小柄	後藤桂乗	虎に豹図貫
後藤光美	富岳図縁頭	献上	葵紋散らし図三所物
後藤光晃	波濤図縁頭	後藤光孝	枝菊に短冊図三所物
後藤光保	ススキに虫図縁頭	献上	葵紋散らし図四所物

## 古刀・新刀とは

日本刀は、慶長(1596)を境に以前のものを「古刀」、以降のものを「新刀」と呼んでいます。日本刀が、鎬造で湾刀(反りのある刀)の様式となったのは、平安時代後期であり、その時代の刀工には、伯耆国に安綱、京に三条宗近、備前国に友成、正恒などがあります。鎌倉時代に入ると、京に栗田口、来の両派、大和国に千手院、手搔、尻懸、当麻、保昌の諸派、備前国に福岡、吉岡の一文字派、長船に光忠という名工が現われ、長光、景光と巨匠が相次ぎ、長船派の名声を不動のものとしました。また、相模国に新藤五国光などが現われ、その門の正宗による相州伝の完成があり、活況を呈しました。南北朝時代には、長大な太刀が出現し、室町時代に入ると、2尺前後の打刀の流行がありました。なお、応仁の乱(1467)以降、室町時代の刀剣は末古刀と呼ばれています。この時代には備前に勝光・祐定、美濃に兼元・兼定、伊勢に村正などが聞こえています。

織豊時代、さらには徳川氏が権勢を握るに至って、大きな社会変革のもとに、これまで刀剣製作が盛んであった備前、美濃などにとって代わり、京・大坂・江戸などの大都市や大名の城下町に刀工が集中しました。とくに「慶長新刀」は、豪壮なものを好む時代の趣味をよく伝え、鎌倉時代と並ぶ刀剣史上の黄金期を創出しています。この時期には、堀川国広、南紀重国、越前康継、肥前忠吉などがおり、寛文・延宝期(1661~80)には、大阪に津田助広・井上真改、江戸に長曾祢虎徹などが出て新しい美のタイプを作り出しました。

幕末の刀剣は「新々刀」と呼ばれています。これは、江戸中期以降衰退した鍛刀界を復活し、日本刀はすべからく鎌倉・南北朝期のいにしえに復活しようとする「復古」の思想が溢れています。この時期の代表的な刀工には、江戸の水心子正秀・大慶直胤・源清磨・左行秀などがいます。

## 第48回 埼玉県名刀展 一古刀・新刀名作展一

会期 平成16年6月20日(日)~7月4日(日) (6/21・25・28休館)

会場 狹山市立博物館 企画展示室

〒350-1324 狹山市稻荷山1-23-1 TEL 04(2955)3804

主催 埼玉県教育委員会・狭山市教育委員会・埼玉県刀剣保存協議会